

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」 第1回推進会議の概要について

三重県の新しい長期の戦略計画である「みえ県民カビジョン」に基づき、県民の皆さんの持つさまざまな力を結集して取り組む「新しい豊かさ協創プロジェクト」に、委員として参画いただく皆さんと知事との意見交換をおこなう全体会議を平成24年7月8日（日）に開催しました。

また、全体会議に引き続き、5つのプロジェクトの1つである「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」の第1回推進会議もあわせて開催しました。

第1回推進会議には、7名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の山田康彦氏にご出席をいただきました。

なお、第1回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

＜委員＞

石川 正浩（サポーターいっちゅう 事務局次長兼広報部長）

太田 浩司（三重県PTA連合会 顧問）

瀬古 久美子（松阪市立大江中学校 校長）

田尾 友児（三重県立紀南高等学校 学校運営協議会 委員）

※田尾委員はご欠席

西岡 慶子（株式会社光機械製作所 代表取締役社長 ※西岡委員はご欠席

宮路 正弘（三重県立飯野高等学校 校長）

山田 忍（スクールカウンセラー）

ファシリテーター

山田 康彦（国立大学法人三重大学 教育学部 教授）

＜推進会議の概要＞

会議の概要は以下のとおり

開会 14:30

- ・教育長あいさつ
- ・県事業の説明

プロジェクト推進に向けた意見交換

- ・各委員の取組紹介
- ・取組の中の成果や課題と感ずることなど

今後のスケジュール

閉会 16:10

（教育長あいさつ、県事業の説明）

冒頭、推進会議のスタートにあつて、真伏秀樹三重県教育長から委員の皆さんへのご挨拶とともに、「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」がめざす姿や実践取組の方向性について説明しました。

また、プロジェクトを構成する4つの実践取組について、担当次長から本年度の具体的な事業について説明しました。

※プロジェクトで挑戦する4つの実践取組

- ①「県民総参加による学力の向上」
- ②「地域に開かれた学校づくり」
- ③「教職員の授業力向上」
- ④「安心して学べる環境づくり」



(プロジェクト推進に向けた意見交換)

続いて、山田教授の司会によりプロジェクトの推進に向けた意見交換を行いました。

各委員からは、それぞれが取り組まれている活動やその成果、活動の中で感じる子どもの学力向上にあたっての課題について意見がだされました。

委員からの主な意見

経営者の立場でも、問題を抱える社員はいるが、自分の悩みを真剣に受け止めてくれる存在があることで仕事に対する態度が変わってくる。

今の保護者は仕事中心で頑張ってきた団塊世代の子どもたちであり、経験としての子育てが難しくなっていると感じる。子育て世代の親に対する支援が必要。

子どもの課題をどう解決したらよいか分からない“育っていない親”が多いと感じる。押付けがましくない親の育ち支援を考えるべき。

親の育ちを支援するには、OBの教員などを活用するのが良いのではないか。

地域で学校を支援する仕組みは色々あるが、地域での受け皿は一つであるべきである。

自分の課題を自らの力で解決しようと努力する高校生が減っていると感じる。

オープンな構造の学校があるが、低学年は授業に集中できない場合もあり、年齢に応じた学習環境をつくるのが大切。

中国人の子どもたちは、日本の子どもたちに比べて一生懸命に勉強していると感じる。

どうしたら学習意欲を持たせられるかを、教員の指導法も含めて考える必要がある。子どもたち同士の学び合いが効果的だと考える。

教師はプロとして授業をしっかりやらないといけないが、学力の定着には家庭や地域の協力が必要である。

先生の話より、スクールカウンセラーなど専門家の話の方が子どもたちには受け入れやすい部分もある。

など



(今後のスケジュールについて)

最後に、9月頃に開催する次回会議については、本年度の取組の進捗状況の報告と翌年度に向けた取組方向を中心に話し合うこと、また、1年間の取組結果の確認と翌年度に向けた意見交換の場として、2月頃に3回目の会議を開催する予定であることを確認しました。

次回(第2回)の開催予定

次回(第2回)推進会議は、平成25年度当初予算編成に推進会議からの意見・提案が反映できるよう、9月頃に公開で開催する予定です。